

全文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

凡例および注意点

凡例：

■ = 段落番号 ① = 文番号

構造 = 【構造】

主 = 主語（部） 動 = 動詞（句） 目 = 目的語（句・節） 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節） 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

*1 = 【解説】とくに注意を要する箇所の指摘および解説

暗例 = 例文（句や節を含む）。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

語句 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

全文構造解説

凡例： **主**主語、**目**目的語、**接**接続詞、**補・形**補語となる形容詞、**副**副詞（句・節） など

第1問A

Question No. 1

① M: Can I have some more juice?

構造 **動***1 **[Can** **主****I** **have]** **目****some more juice?** 「私ほん少しジュースを飲めますか」

*1：助動詞 can は可能「～できる」や推量（可能性）「～（できる）かもしれない」を表し、疑問文では依頼表現となることもある。この意味は「（私がほん少しジュースを飲むことは可能ですか？→）ほん少しジュースをもらえますか？」となる。内容的には、Can you give me some more juice? と同じ。ちなみに、過去形の Could で始めると仮定表現が加わり、より丁寧な響きになる。なお、本書の構造部においては原則、常体（だ、である調）を使うが、とくに疑問文において常体ではわかりづらいときには、敬体（です、ます調）を使うことがある。

語句 juice [dʒʌ:s | ジュース] **名**「（ふつう果汁100%の）ジュース」

② I'm still thirsty.

構造 **主****動****I**'m **副**still **補・形**thirsty. 「私はまだ喉が渴いている」

語句 still [sti:l | ステウ] **副**「まだ」、thirsty [θɜ:rsti | タステイ] **形**「喉が渴いて」

Question No. 2

① M: Where can we go this weekend?

構造 **副**Where **動**[can **主**we go] 「私たちはどこへ行けますか」 **副**this weekend? 「この週末」

② Ah, I know.

構造 **間**Ah, *1**主**I **動**know. 「ああ、そうだ」

*1：I know. は、文脈によって「わかっている。」「いい考えがある。」などの意味になる。

③ How about Sunset Beach?

構造 *1**副**How **副**about Sunset Beach? 「サンセット・ビーチはどうだろう」

*1：how about ～？は動詞を持たない慣用表現で、「～はどうだろう？」という提案を表す。How do you feel about ～？「～についてあなたはどう感じますか。」を略した表現と考えるとよい。

語句 how about ～？「～はどうだろう？」

Question No. 3

① M: To start working in Hiroshima next week, Yuji moved from Chiba the day after graduation.

構造 **副**[To start **目**working **副**in Hiroshima **副**next week], 「来週、広島で働き始めるために」 **主**Yuji **動**moved **副**from Chiba 「ユウジは千葉から引っ越した」 **副**the day after graduation. 「卒業の翌日に」

語句 graduation [grædʒʊeɪʃən | グラデュエーション] **名**「卒業」

Question No. 4

① M: I won't give David any more ice cream today.

構造 **主**I **動***1won't give **目**David **目**any more ice cream 「私はデイヴィッドにこれ以上アイスクリームをあげるつもりはない」 **副**today. 「今日」

*1：授与動詞 give は目的語を2つとれる（SVOOの第4文型）。ここではDavidが「（主に人）～に」にあたる間接目的語、（any more）ice creamが「（主にもの）～を」にあたる直接目的語。目的語は必ず名詞なので、ここでは2つの名詞が並ぶことになる。2つの名詞の境目がどこにあるのかを見極める（聞き分ける）ことが大切。なお、本書では動詞を意味のまとまりとして扱う。助動詞や否定語 notなども動詞に含み、want to do などのよく使われる表現も1つの動詞の意味としてとらえるものとする。

語句 not ～ any more 「もはや～ない、これ以上～ない」（※≠no more）

② I gave him some after lunch.

構造 **主**I **動**gave **目**him **目**some 「私は彼にいくつかあげた」 **副**after lunch. 「昼食後に」

第1問B

Question No. 5

① W: Almost everyone at the bus stop is wearing a hat.

構造 **主***1Almost everyone at the bus stop 「バス停にいるほぼ全員が」 **動***2is wearing **目**a hat. 「帽子をかぶっている」

*1：almost 「ほとんど」は副詞なので、本来は名詞を修飾することはない（名詞を修飾（形容）するのは形容詞だけ）。このalmost は名詞 everyone の every（単独では形容詞）の意味を部分的に修飾していると考える。

*2：wear「身につけている」は状態を表す動詞なので、本来は進行形にする必要はないが、ここでのように着用している状態を強調するために使われることもある。なお、「身につける」動作はput on で表す。

語句 almost [ɔ:lmo:st | オールモウスト] **副**「ほとんど」、hat [hæt | ハト] **名**「（ふつう、つばのある）帽子」（※野球帽のような形の帽子をcapと呼ぶが、hatに含まれると考えてよい）

Question No. 6

① W: Nancy already has a lot of striped T-shirts and animal T-shirts.

構造 **主**Nancy **副**already **動**has **目**a lot of striped T-shirts and animal T-shirts. 「ナンシーはすでにたくさんの縞柄と動物柄のTシャツを持っている」

構造 striped [straɪpt | ストライプト] **形**「縞柄の、ストライプ柄の」

② Now she's buying another design.

構造 **副**Now **主****動**she's buying **目**another design. 「今、彼女は別の図柄（のTシャツ）を買おうとしている」

語句 design [dizáin | デザイン] **名**「デザイン、設計」、another [ənədðə | アナダ] **形**「別の、他の」

第1問A Q. 1～Q. 4

第1問B Q. 5～Q. 6

Question No. 7

① W: The girl's mother is painting a picture of herself.

構造 **主**The girl's mother **動**is painting **目**a picture of herself. 「その少女の母親は、自分自身の絵を描いている」

語句 paint [peɪnt | ペイント] **動**「色を塗る、絵を描く（※絵筆を使う場合。鉛筆やペンで絵を描くときはdrawを使う）」

第2問

Question No. 8

① M: Maria, let me get your water bottle.

構造 **間***1Maria, 「マリア」 **動***2let **目**me **get** **目**your water bottle. 「あなたの水筒を私に持ってこさせて」

*1：人名だが、ここでは呼びかけの一種として間投詞と解釈する。

*2：let O do「Oに～させてやる」は使役動詞の一種。動詞で始まる命令文だが、ふつう相手の利益になる（と本人が思う）ことは命令文で表しても失礼にはならない。ここでは命令ではなく提案となる。

語句 get **動**「取ってくる、買ってくる」、water bottle 「水筒」

② W: OK, mine has a cup on the top.

構造 **間**OK, 「わかった」 **主**mine 「私のものは」 **動***1has **目**a cup 「カップが付いている」 **副**on the top. 「てっぺんに」

*1：動詞have「持っている」は、ものが主語のときにはさまざまな訳が考えられる。意味をイメージでとらえることが大切である。

③ M: Does it have a big handle on the side?

構造 **動**[Does **主**it have] **目**a big handle **副**on the side? 「それは、サイドに大きな取っ手が付いていますか」

語句 handle [háendl | ハンドゥウ] **名**「取っ手」

④ W: No, but it has a strap.

構造 **副**No, 「いいえ」 **接**but **主**it **動**has **目**a strap. 「でも、それには1本ストラップが付いている」

語句 strap [stráep | ストラップ] **名**「幅広いヒモ、ストラップ」

⑤ Question: Which water bottle is Maria's?

構造 *1**補・名**Which water bottle **動**is **主**Maria's? 「どの水筒がマリアのものか」

*1：この疑問文への答えは**主**Maria's **動**is **補・名**this water bottle. のようになるので、文頭の部分は補語となる名詞と解釈する。このWhichは、名詞water bottleを修飾するので〈疑問形容詞〉という。ほぼ同じ意味のWhich is Maria's water bottle? とするなら、Whichは〈疑問代名詞〉である。「形容詞は必ず名詞を修飾する」ことをしっかり理解しよう。

Question No. 9

① W: What about this animal one?

構造 *1**目**What **副**about this animal *2one? 「この動物のものはどうだろう」

*1：what about ～？は動詞を持たない慣用表現で、「～はどうだろう？」という提案を表す。What do you think about ～？「～についてあなたはどう思いますか。」を略した表現と考えるとよい。類似表現のhow about ～？については、Question No. 2 **⑤** *1の解説

を参照。どちらの意味もほぼ同じと考えてよい。

第1問B Q. 7

第2問 Q. 8～Q. 9

を参照。どちらの意味もほぼ同じと考えてよい。

*2：不定代名詞のone。ここでは話題として定まっていないrobotを表す。話題として定まれば代名詞はitに変わる。

語句 what about ～？「～はどうだろう？」

② M: It's cute, but robots should be able to do more.

構造 **主****動**It's **補・形**cute, 「それはかわいい」 **接**but **主**robots **動**should be able to do **目***1more. 「でも、ロボットはもっと多くのことをできて当然だ」

*1：このmoreは動詞do「する」の目的語。目的語は必ず名詞なので、「より多くのこと」の意味となる。

語句 robot [róubat | ロウバト] **名**「ロボット」、be able to do「～できる」

③ W: That's right. Like the one that can clean the house.

構造 **主****動**That's **補・形**right. 「それは正しい」 **副***1[Like the one **関代**that **動**can clean **目**the house]. 「家を掃除できるものように」

*1：ここは最初の文が平易なので便宜的に2つの文をまとめているが、以降、同様とする。2文目は、〈主語＋動詞（SV）〉構造を持たないので、厳密には文ではなく、〈前置詞＋名詞〉構造の副詞句と考える（このときの名詞を〈前置詞の目的語〉という）。ここでは、前置詞Likeに続く名詞部分the oneが、関係代名詞thatに導かれる節によって修飾されている。関係代名詞とは、文を名詞節に変換するときを使う記号と考える。ここではthe one(= robot) can clean the house. 「その1つ（ロボット）は家を掃除できる。」という文が、主語the oneを先行詞とするthe one that can clean the house「家を掃除できる1つ（ロボット）」という名詞節に変換されたもの。先行詞がもとの文の主語なので、この関係代名詞thatを主格という。

④ M: Exactly. That's the best.

構造 **副**Exactly. 「その通りだ」 **主****動**That's **補・形***1the best. 「それが最高だ」

*1：定冠詞theは本来、限定された名詞につけるもの。形容詞の最上級がtheを伴うのは、形容詞が必ず名詞を修飾（形容）するもので、その形容詞の背後の名詞が意識されるからである。ここではthe bestの背後にrobotが意識されているということ。

語句 exactly [ɪgzæktli | イグザクトリ] **副**「正確に、（口語で、同意して）その通りだ」

Question: Which robot will the man most likely vote for?

構造 **目**Which robot 「どのロボットに」 **動**[will **主**the man **副**most likely **動**vote] **前***1for? 「男性はもっとも投票しそうか」

*1：動詞vote「投票する」は自動詞で、目的語をとるためにはvote for someone「だれかに投票する」のように、前置詞forが必要になる。このとき、**動**vote for **目**someoneと考えるとよいし、**動**vote **副**for someoneと考えるとよい。someoneは、前者においては**目**動詞vote forの目的語となり、後者においては前置詞forの目的語となる。ここでは、文頭のWhich robotは前置詞forの目的語と解釈して構造を示した（疑問形容詞Whichが名詞robotを修飾し、全体として名詞句となる）。

語句 most likely 「もっともありそうに」、vote [vóut | ヴアウト]

動「投票する」